

2026

東京大学横断型教育プログラム

海洋学際教育プログラム

University-wide Education Program

Interdisciplinary Education Program on
Ocean Science and Policy

プログラムガイダンス

日時: 2026年4月6日(月) 18:00～

会場: 本郷キャンパス 工学部2号館213号講義室

ZOOM配信あり

ガイダンスの詳細はこちらにアクセスしてご確認ください。

2026年度「海洋学際教育プログラム」ガイダンスのお知らせ
<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/news/0089/index.html>



海洋を通じて

世界への視野を広げる機会に

地球表面の7割を占める海洋は、世界の国々が共存する場であるとともに、熱や水、有機物・無機物の循環をはじめとして、地球規模の気候変動に大きな役割を果たしています。その海洋はいま、地球温暖化に伴う環境変化、漁業資源や海底鉱物資源の有効利用、海洋プラスチックごみ削減など、解決すべき多くの課題を抱えています。これらの問題解決をしていくためには、海洋に関わる多面的な知の力と世界をつなぐ人材のネットワークが必要です。

海洋に関わる学問分野は多岐にわたっており、海洋学は、物理学、化学、生物学、地学などの自然科学に、水産学や海洋技術工学などの応用分野が融合した学際的な分野といえます。しかし、現代社会が抱える海洋にかかわる諸問題の解決には、既存の学問領域に加えて、海洋法や海洋政策といった社会科学の知も結集しての対応が必要です。海洋の分野においても文理融合が必要な時代となっており、各分野に幅広いイテラシーを持った人材の必要性が高まっています。

文系理系といった枠を超えた知識と問題解決能力の涵養は容易ではありませんが、このような背景を踏まえて、学際的な海洋問題に即応可能とする高度海洋人材の育成を目指す「海洋学際教育プログラム」が、2009年に東京大学の正式な横断型教育プログラムとして開講されました。

本教育プログラムは、東京大学の全学的な部局横断型海洋教育研究の核として7研究科、5研究所、1研究センターが中心となって2007年に設置された「海洋アライアンス」が基盤であり、この海洋アライアンスは2020年4月に海洋アライアンス連携研究機構として組織が大きく発展し、引き続き本教育プログラムの運営に協力しています。必修科目となっている「海洋問題演習」の2026年度の演習課題は「持続可能な海事産業の構築を目指して」「海洋再生可能エネルギー」「カーボנקレジット」「マリンバイオセキュリティ」「海洋における食糧安全保障」「世界にコミットする問題発掘とその具体的対応・国際機関との連携」「文化的側面から見た海洋の捉え方」となっています。これらの課題について、海洋アライアンスに所属する教員が、専門分野を駆使して現代社会が抱える問題に挑戦する学生の皆さんの指導を担います。

一方で、海洋学際教育プログラムでは、将来世界を舞台に活躍するためのキャリアパス形成を目的として国際機関への海外インターンシッププログラムを用意しているほか、国内の関連省庁や組織での国内インターンシップも推

奨しています。海の現場を知るためのフィールドワークを組み入れたカリキュラムも準備されており、この教育プログラムに参加する学生は、それぞれの研究科で専門性を深めるだけでなく、世界に広く視野を広げる機会を持つことができます。

森・川・海・空の連環が理解されるようになり、海はあらゆる学問分野と関連があります。海洋を対象に研究をする学生だけでなく、陸域生態系や水・大気循環、地球環境変動、陸上の行政・政策といった、海洋とは直接関わりがないようにみえる研究分野の学生にとっても有意義な情報が得られ、専門分野の研究にも必ず役に立つものと考えています。また、海洋に興味があるので全体像を把握したい、あるいは学際的な思考に興味がある、といったリベラルアーツとしての知識の涵養を求める学生の皆さんも歓迎します。

新型コロナウイルスの世界的流行は、大学教育にも大きな影響を及ぼし、海洋学際教育プログラムにおいても、海外インターンシップを含めオンライン授業の大幅な導入を余儀なくされました。しかし現在は、対面講義のみならず、必修科目におけるフィールドワークや海外インターンシップの派遣もコロナ禍前に戻り、実践的学習のより積極的な活用が図られています。2026年度は、解決すべき海洋に関わる世界的課題をさらに身近に実感できるプログラムを提供したいと考えています。海洋への探求に興味を持つ学生の皆さんを海洋学際教育プログラムはお待ちしております。

海洋学際教育プログラム主査
農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授

山本 光夫



海洋学際教育プログラム委員



副査：
伊藤 幸彦

新領域創成科学研究科 自然環境学専攻
/ 大気海洋研究所・教授



副査：
木村 伸吾

大気海洋研究所・教授



委員：
升本 順夫

理学系研究科 地球惑星科学専攻・教授



委員：
三浦 徹

理学系研究科 生物科学専攻・教授



委員：
田島 芳満

工学系研究科 社会基盤学専攻・教授



委員：
柴崎 隆一

工学系研究科 システム創成学専攻・准教授



委員：
高須賀 明典

農学生命科学研究科 水圏生物科学専攻・教授



委員：
早稲田 卓爾

新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻・教授



委員：
北川 貴士

新領域創成科学研究科 自然環境学専攻
/ 大気海洋研究所・教授



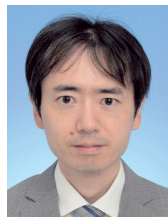
委員：
平林 紳一郎

新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻・准教授



委員：
城山 英明

公共政策学研究部・教授



委員：
伊藤 一頼

公共政策学研究部・教授



委員：
沖野 郷子

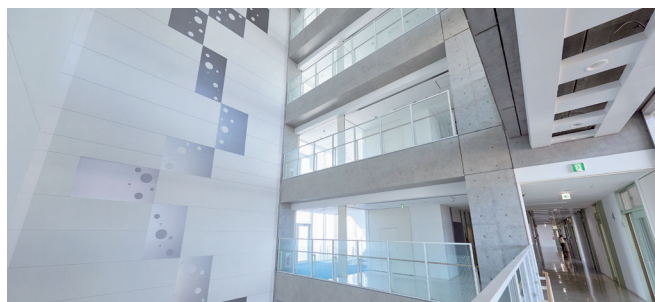
大気海洋研究所・教授
/ 海洋アライアンス連携研究機構長



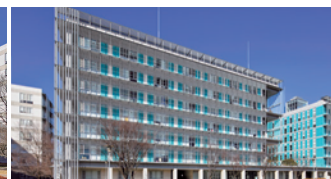
委員：
牧野 光琢

大気海洋研究所・教授

Program



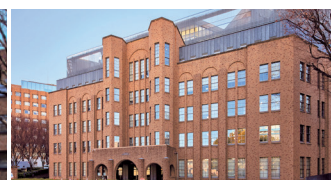
大気海洋研究所



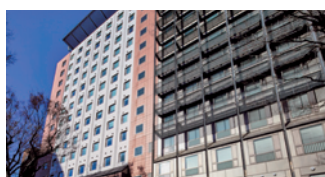
新領域創成科学研究科



農学生命科学研究科



工学系研究科



公共政策学研究所



理学系研究科

海洋に関する現場型の文理横断プログラム

海洋学際教育プログラムの特徴は、海洋にかかわる現代の社会問題に目を向け、その解決の力となる文理にわたる幅広い講義科目をそろえている点にあります。机上にとどまることなく社会の現場を体験するためのフィールドワークや、国連を始めとする国内外の機関に派遣するインターンシップ制度も用意しています。

このプログラムは東京大学の大学院生を対象としており、プログラム独自の必修科目「海洋問題演習」に加え、各研究科が開講している科目からプログラムが指定するものを選んで履修します。海洋物理学、海洋生物学、海洋工学、海洋政策、沿岸管理など多彩な科目を指定している点が特徴です。所属する研究科の境を越えた新たな領域にチャレンジすることを、強くお勧めします。必修科目、選択必修科目、推奨科目から所定の単位を取得すると、東京大学教育運営委員会から正式な修了証が授与され、修了証明書が発行されます。履修生の多くは修士課程で修了しています。

修士・博士論文に向けた研究に加えてプログラム修了のための科目を履修することになりますが、履修科目が専攻と重複している場合もあり、修了生からは「負担感はさほどなかった」「他研究科の学生と知り合いになれてよかった」との声も聞かれます。専門の枠を超えて自分を磨く貴重な経験になるはずです。

社会課題の解決に取り組む「海洋問題演習」

必修科目の「海洋問題演習」では、海洋にかかわる社会的な問題の現状を知り、グループワークによってその解決に向けた提言をまとめます。第一線で活躍する学内外の専門家がオムニバス形式で講義を行うSセメスターと、少人数のグループワークで議論を深めるAセメスターとからなる通年科目です。海洋学際教育プログラムの中核をなす科目といえます。2026年度は「持続可能な海事産業の構築を目指して」「海洋再生可能エネルギー」「カーボンクレジット」「マリンバイオセキュリティ」「海洋における食糧安全保障」「世界にコミットする問題発掘とその具体的対応・国際機関との連携」「文化的側面から見た海洋の捉え方」の7テーマで実施する予定です。

Aセメスターのグループワークでは、現地調査を実施します。グループ分けの際には履修者の文理バランスを考慮するので、自分の専門分野とは違う知のフレームワークに触れることができます。

まとめた提言は授業の最終回にグループごとに発表し、優秀なグループを表彰します。成績評価は、課題レポートをもとにセメスターごとに行います。



▶ 漁業者へのインタビュー



▶ 対馬市役所前にて



▶ 離島での水産業について説明を受ける

海の現場を知る国内外のインターンシップ



▶ IMO でのインターンシップ

海に関係するプロの仕事や、その現場に入って肌で感じることができるのが、海洋学際教育プログラムのインターンシップです。国内外の機関の協力で独自のしくみを整えており、とくに学内の選考を経て派遣する海外インターンシップは、一般公募に比べて実現のチャンスが大きくなっています。参加して報告書を提出すると、選択必修科目「海洋法・海洋政策インターンシップ実習」の単位として認定されます。



▶ FAO でのインターンシップ



▶ 造船所視察
(国交省インターンシップ)



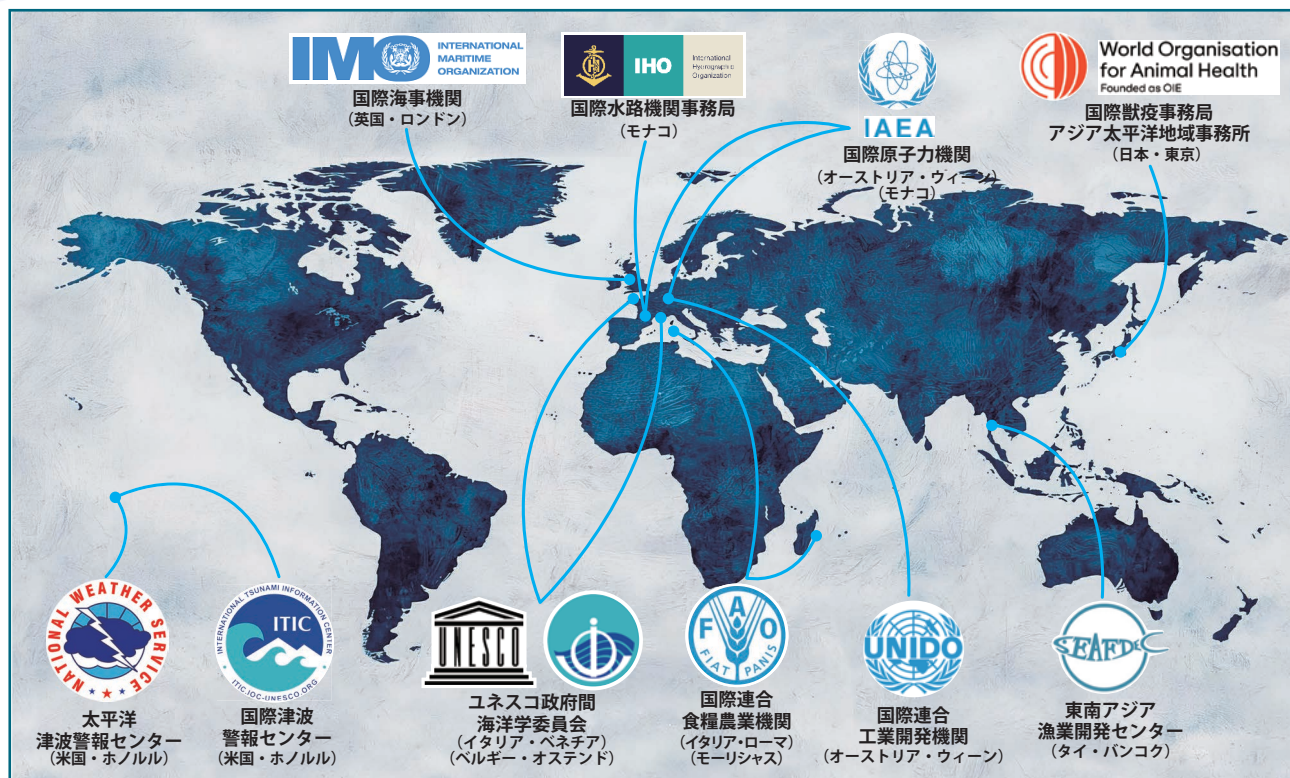
▶ 国交省でのインターンシップ

これまでのプログラム参加人数

開講年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
必修科目「海洋問題演習」受講者	70名	66名	60名	75名	56名	61名	52名	52名	56名	43名	39名	54名	50名	32名	40名	53名	43*名
海洋学際教育プログラム登録者	81名	75名	68名	90名	66名	58名	49名	79名	64名	55名	47名	73名	56名	49名	53名	64名	44名
海洋学際教育プログラム修了者	-	17名	18名	20名	16名	14名	16名	12名	11名	16名	11名	11名	9名	15名	15名	20名	17*名

* 2026年1月時点の見込人数

Internship



海外インターンシップ

海外インターンシップは、海洋にかかわる国際的な人材の育成を目指し、日本財団の助成で2014年度に始まりました。学内の選考を経て、2～3か月の長期にわたって国連機関などに費用負担なしで派遣されます。2014～2025年度の12年間で16機関に64人を派遣しました。将来のキャリアにつながる人のネットワークを築くことも期待されています。新型コロナウイルスの感染が拡大した2020～21年度はオンラインで実施しましたが、2022年度に派遣を再開しました。

国連機関などに
長期派遣



省庁や研究機関などで
実習



国内インターンシップ

国内インターンシップの期間は、おおむね2週間～1か月です。気象庁や海上保安庁を含む国土交通省、水産研究・教育機構、環日本海環境協力センターなどに毎年10人前後の学生が派遣されています。各省庁が募集する一般公募のインターンシップについても、事前に届け出たうえで活動の報告書を提出すれば、所定の単位として認められます。

修了生の進路（一例）

■令和7年度【官公庁】国立研究開発法人水産研究・教育機構、財務省、水産庁、国土交通省【民間企業等】JFEスチール株式会社、株式会社住友不動産、株式会社リソナ銀行、株式会社野村総合研究所（2名）、株式会社NTT、一般財団法人日本気象協会、ENEOS株式会社、大和証券株式会社【進学・その他】新領域創成科学研究科特任研究員、理学系研究科博士課程（3名）、農学生命科学研究科博士課程（2名）、工学部■令和6年度【官公庁】農林水産省（総合職技術系）、外務省（総合職）、国土交通省（2名）、気象庁、環境省（自然系総合職）、原子力規制庁（研究職）【民間企業等】EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社、IQVIA サービス・ソリューションズジャパン合同会社、オセアニック ネットワーク エクスプレス ジャパン株式会社（総合職）、花王株式会社（技術系研究職）、株式会社みずほリサーチ・アンド・テクノロジーズ（総合職）、株式会社NTT データ CCS、株式会社極洋、株式会社日本総合研究所（リサーチ・コンサルティング部門）、株式会社野村総合研究所（2名）、出光興産株式会社（技術職）、清水建設株式会社【進学・その他】理学系研究科博士課程（2名）、農学生命科学研究科博士課程（3名）、アルフレッド・ウェグナー極地海洋研究所（博士研究員）、国立遺伝学研究所（学振PD）、最高裁判所司法研修所（司法修習生）■令和5年度【官公庁】農林水産省（総合職事務系）【民間企業等】全日本空輸株式会社（運航乗務員訓練生）、鹿島建設株式会社（土木系総合職）、本田技研工業株式会社、株式会社商船三井（陸上総合職（事務系））、パナソニック コネクティブ株式会社、EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社、一般社団法人日本海事協会（技術系総合職）、デロイトトーマツサイバー合同会社（サイバーアドバイザー）、ボストンコンサルティンググループ【進学・その他】理学系研究科博士課程、理学系研究科（地震研究所）博士課程、新領域創成科学研究科博士課程■令和4年度【官公庁】外務省（総合職）、経済産業省（技術系総合職）、国土交通省（総合職事務系・院卒区分）【民間企業等】株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル（総合[技術]職）、日本赤十字社（社会人学生・総合職）、アクセンチュア株式会社（マーケティング職）、ボストン・コンサルティング・グループ合同会社（アソシエイト）、PwCコンサルティング合同会社（コンサルタント職）、三菱商事株式会社（総合職）、KPMGコンサルティング合同会社（シニアマネージャー）、株式会社アグリメディア（総合職）、株式会社国際協力銀行（総合職）、応用地質株式会社（技術系総合職）、日本冶金工業株式会社（技術職）、NTTデータ（システムインテグレーター）■令和3年度【官公庁】農林水産省、水産庁（総合職技術系）【民間企業等】日本電信電話株式会社（NTT研究所）（研究開発職）、日本郵船株式会社（総合職陸上職事務系）、日本銀行（総合職）、三菱商事株式会社（総合職）■令和2年度【官公庁】気象庁（総合職）、防衛省（事務系総合職）【民間企業等】日本学術振興会 特別研究員（PD）（受入先 海洋研究開発機構）、株式会社野村総合研究所（AE）、株式会社テックスエンジニアソリューションズ（システムエンジニア）、株式会社ベネッセコーポレーション（総合職）、三井E&S造船株式会社（研究職）、アクセンチュア（SE）、アーンスト・アンド・ヤング（CCaSS部門）、富士通株式会社（SE職）、アマゾンジャパン合同会社（サプライチェーンスペシャリスト）



海外インターンで育む、 主体性と国際感覚

水産庁
農学生命科学研究科水圏生物科学専攻修士課程修了
丸山 匠さん

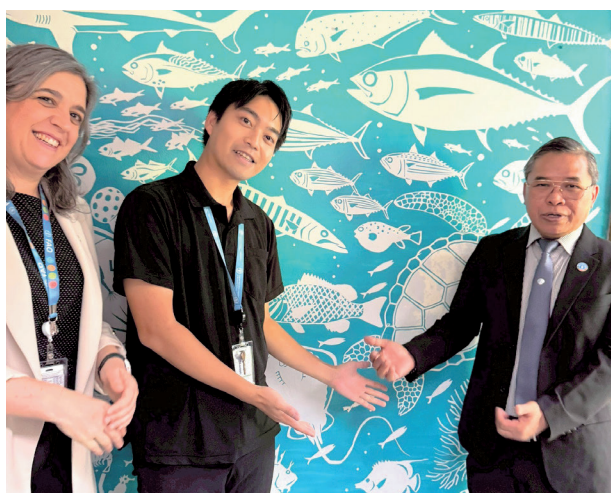
バンコクにある FAO RAP（国際連合食糧農業機関 アジア・太平洋地域事務所）の水産部門に 3 か月間派遣していただきました。業務内容は、アジア太平洋地域における小規模漁業の課題整理・改善策の検討、世界各国の漁獲データの要約・資源利用状況の分析、「世界漁業・養殖業白書（SOFIA）」に向けた日本の資源評価データの更新、ワークショップ資料の作成等です。

「水産の現場も見て回りたい」と上司にわがままを言ったところ、出張の機会もたくさん頂きました。特に印象に残ったのは、シーチャン島の海洋生物バンクです。種苗（水産動物の卵・稚仔）の放流に地域の風習と漁業者へのインセンティブをうまく組み合わせた資源管理の仕組みを構築しており、とても勉強になりました。

イラストを描く機会にも多く恵まれ、国際会議の記念品ノートの表紙絵を依頼されたり、オフィスの壁に海洋生態系をテーマにした絵を描かせていただきました。

週末は魚釣りや市場巡りをしていました。バンコクの運河にはティラピアや巨大なナマズなど、たくさんの魚が生息しています。家のそばでナマズ釣りをしていたら現地の釣り人と仲良くなり、そのまま深夜の市場に魚を売りに行くという貴重な体験もしました。

今回のインターンシップでは、専門的知見だけでなく、多国籍環境で協働する姿勢や、コミュニケーションの方法も学びました。特に、英語を流暢に話すことよりも、相手の文化を尊重する心と笑顔のほうがか大切だということを学びました。また、魚釣りや市場巡りといった業務外の活動も、結果的に当該地域の水産業への理解に繋がり、積極性と好奇心の重要性を再確認しました。国際機関における実務と現場を同時に学べる非常に良い機会なので、ぜひ皆さんにも挑戦して頂きたいです。



Syllabus

プログラム実施科目 シラバス

- 理学系研究科
- 工学系研究科
- 農学生命科学研究科
- 新領域創成科学研究科
- 公共政策学教育部

修了に必要な単位数

科目種別	必須修得単位数
必修科目	4
選択必修科目	4
小計	8
選択必修科目または 推奨科目	4
合計	12

STEP 01 必修科目

- 海洋問題演習 I
- 海洋問題演習 II
- 海洋問題演習 III
- 海洋問題演習 IV
- 事例研究 (海洋問題演習 Va)
- 事例研究 (海洋問題演習 Vb)

2021年度大学院入学者から修了に必要な単位数が変わりました。

2020年度以前の入学者の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

海洋学際教育プログラム事務局

Email : oa-office@oa.u-tokyo.ac.jp
Tel : 04-7136-6416

海洋学際教育プログラム HP

<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/education/index.html>



STEP 02 選択必修科目

■ 海洋基礎科学

■ 海洋工学基礎

■ 水産海洋学

■ 海洋法・海洋政策インターンシップ実習

■ 海事政策論

■ 沿岸域管理法制度論

■ 国際海洋法制度概論

■ 海洋科学技術政策論

STEP 03 推奨科目

■ 海洋底ダイナミクス ■ 海洋生物学

■ 水圏流砂漂砂論 E ■ 海事技術イノベーション
(Sediment transport in hydrosphere E)

■ 複雑流体システムモデリング

■ 水産資源管理学 ■ 国際水産開発学総論

■ 水域保全学 ■ 国際水産開発学特論

■ 水圏生態論 ■ 海洋環境モデリング

■ Science, Technology and Public Policy

■ 国際空間秩序と法※¹ ■ 交渉と合意

※¹ 法学政治学研究科総合法政専攻、法曹養成専攻でも同じ科目が開講されていますが、公共政策学教育部が開講する科目のみが対象となりますので、ご注意ください。海洋学際教育プログラムとしてこの科目を履修する場合は、科目コード 5121130 を使って登録してください。



Registration

プログラム履修の流れ

参加には「WEB 登録」を

海洋学際教育プログラムに参加するには Web での申請が必要です。申請は通年で受け付けますが、各セメスターに開講される科目には研究科ごとに登録期限があるので、その点に注意してください。修了に必要な科目と単位数は、7～8 ページに掲載しています。

広い視野を身につけられるよう、研究分野が文系の学生は理系科目を、理系の学生は文系科目を履修することをお勧めします。大学院正規課程を修了または博士課程を満期退学することが、プログラム修了の条件となります。海外・国内インターンシップの募集開始時期は年度により異なります。事務局へお問い合わせ下さい。

海洋学際教育プログラム事務局

Email : oa-office@oa.u-tokyo.ac.jp

Web 登録

右記 QR コードを読み込んで、登録してください。
<https://forms.gle/fXZFP3HYJcq8mpGF9>



最新情報

海洋学際教育プログラム Web サイト内の学内向け情報にてお知らせしますので、随時チェックしてください。学外からのアクセスには ID・パスワードが必要となりますので、事務局へお問合せください。
<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/education/index.html>



参加登録から修了までの流れ

参加の登録申請

- 1 登録は、必修科目「海洋問題演習 I ～ Va」を履修するとともに、Web にて期日までに海洋学際教育プログラムに登録すること。

科目履修登録

- 2 履修は、所属する研究科等の定める履修手続き及び方法に従い、研究科等の定める期限までに履修登録すること。

科目単位認定

- 3 単位・成績の評価は、授業科目ごとに行われる。なお、他の研究科の科目を履修した場合の単位認定は、所属する研究科等において定められた取扱いによる。

修了証申請

- 4 修了証申請時期は、課程修了予定学期の学期始めの定められた期間に申請すること。

修了証授与

- 5 登録申請後、プログラムが定める所定の科目を履修し、かつ定められた期日までに UTAS で部局横断型教育プログラム Web 修了証申請を行った者に、海洋学際教育プログラムの修了証を交付する。

学際的な学びと経験、そして研究や実務へ

国土交通省

公共政策学教育部公共政策学専攻専門職学位課程修了

平井 伶磨さん

海洋学際教育プログラムの魅力は、幅広い科目や双方向的な議論、多様な経験を通じて、確かな知識とそれに基づく見解を持つことができる点です。断片的であった海洋法・海洋政策の知識を整理・増強して自身の見解を持つことができ、学会での論文賞の受賞や官庁訪問において理論と経験に裏打ちされた思いを伝えることができました。文理の違いや進路を問わず幅広い学生にお勧めできるため、ぜひこの世界に飛び込んでみてください。



さまざまな機会をもらえるプログラム

J F E スチール株式会社

法政治学研究科法曹養成専攻専門職学位課程修了

南部 良太さん

このプログラムは様々な機会を与えてくれます。「海洋問題演習」は、幅広い専攻の学生や先生方との議論、学外の方々への取材を通じて、多様な考え方に触れる機会となりました。国土交通省でのインターンシップは、職員の方々から直接ご指導いただける貴重な機会となりました。また、ジュネーブに交換留学した際に手配していただいた、世界気象機関 WMO への訪問は、WMO 職員の方から直接お話を伺える得難い機会となりました。



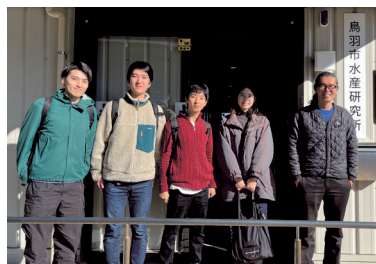
年間スケジュール	4月	国内・海外インターンシップ募集・派遣（随時）	海洋問題演習 S セメスター	・海洋学際教育プログラムガイダンス ・プログラム登録開始（通年可） ・プログラム修了申請（9月修了予定者）
	5月			・履修登録
	6月			・海洋問題演習 S セメスターレポート説明
	7月		海洋問題演習 A セメスター	・海外インターンシップ学内講演会 ・海洋問題演習 S セメスターレポート締め切り
	8月			・S セメスター成績 ・海洋問題演習 A セメスターチーム分け
	9月			・9月入学者向けプログラム登録 ・A セメスター講義開始
	10月		海洋問題演習 A セメスター	・プログラム修了申請（3月修了予定者） ・海洋問題演習フィールドワーク（随時）
	11月			・海洋問題演習中間発表
	12月			・海洋問題演習 A セメスターレポート説明
	1月		海洋問題演習 A セメスター	・海洋問題演習最終発表 → 最優秀、優秀チーム表彰 ・海洋問題演習 A セメスターレポート締め切り
	2月			・通年または A セメスター科目成績
	3月			・プログラム修了式

海洋のリアルな課題と向き合う

株式会社 N T T
理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程進学
理学系研究科地球惑星科学専攻修士課程修了

毛利 奈央さん

「海洋問題演習」では、漁師や水産加工業の方々から直接お話を伺い、現場が抱えるリアルな課題を学びました。研究科の垣根を超えた学生との議論を通じて、専門分野や視点の違いが新たな発想につながることを実感しました。こうした経験を通して、環境問題の解決には産学官など幅広い立場の連携が不可欠であり、アカデミアにとどまらない広い視野を持ち続けることの重要性を意識する大きなきっかけとなりました。



海を通して見えた社会

一般財団法人日本気象協会
理学系研究科地球惑星科学専攻修士課程修了

野川 峻さん

「海洋問題演習」では、秋田県の洋上風力発電導入の合意形成における課題を対象としました。立場の異なる人々の多様な主張が存在し、合意形成の過程が複雑化しているということ、実際に話を伺う中で初めて実感しました。本プログラムは、海というフィールドを通してそこに生きる人々の社会を見つめ、社会が抱える課題を見つけ出し、解決に向けた方法を議論することができる貴重な機会であると考えています。





海洋学際教育プログラム事務局

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5 大気海洋研究所520号室

Tel: 04-7136-6416
E-mail : oa-office@oa.u-tokyo.ac.jp
URL: <http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/>



本教育プログラムは、東京大学と日本財団の連携に基づき、大学院教育の一環として実施するものです。